

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 a

男子・女子 回戦 準々決勝・準決勝・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
県立藤代紫水	27	<table border="0"> <tr><td>9</td><td>—</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>—</td><td>15</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td colspan="3">7mTC</td></tr> </table>	9	—	17	18	—	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			32	大阪体育大学浪商
9	—	17																				
18	—	15																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

関東ブロックと近畿ブロックのそれぞれ1位どうしの対戦。試合は浪商2番浅川のロングで先制、対する紫水も7番千葉のカットインですかさず同点に、その後12分までは互いに持ち味を生かした攻撃で点を取り合う展開が続いたが、12分過ぎから10番前園のミドル・ロングを軸に速攻も絡めながらの攻めで浪商が8連続得点をあげた。紫水も反撃に出るが浪商16番堀田の好セーブにはねかえされ得点ができない。そして点差は8点差にまで開いた。前半終盤、紫水はサイドシュートで点差をつめるが、浪商も得点チャンスを逃さず、前半は17-9の8点差で終了。

後半開始4分過ぎから紫水の猛反撃がはじまり、速攻など連続得点で差をつめる。浪商はタイムをとり落ち着きを取り戻したが、11分からは相手のマンマークがつく中で、攻撃が相手キーパーの好セーブに阻まれ得点が止まり紫水4番木元・5番青山のサイド・14番河原のステップを決められ、8点差は後半26分には3点差にまで詰まった。それでも最後に力を振り絞った浪商が32-27で藤代紫水を振り切り、明日の準決勝進出をきめた。GKの攻守が光った試合であった。

2016年 3月 27日

記載者氏名 潮海克郎

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男b

男子・女子 回戦 準々決勝・準決勝・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
大分	31	14	13	北陸
		—	—	
		17	16	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		
			29	

男子準々決勝。九州ブロック覇者・大分（大分）と北信越ブロック覇者・北陸（福井）との一戦。

大分のスローオフで試合開始。開始早々、大分は7番山田の高さのあるシュートで先制点を決める。対する北陸も5番落田のシュートですかさず追いつく。序盤は互いに主導権を譲らない展開。離されては追いつく一進一退の攻防が続く。大分は15分22秒、10番川内が2分退場となり不利な状況に陥るが鉄壁のディフェンスで耐え抜き、16分16秒からは5連続得点を決める猛攻で逆転に成功し、リードを奪う。悪い流れを断ち切りたい北陸は、21分39秒からの3連続得点で同点とし、26分35秒に13番福本が7mスローを決め、一時は逆転に成功。しかし、北陸は9番木村の不正入場を含む退場者を出し、このチャンスに大分11番石黒が14点目を挙げ、大分の1点リードで前半を終える。後半は両チームとも点の取り合いとなるシーソーゲームの展開が続くが、中盤17分以降、大分は4連続得点を決め、流れを引き寄せ優位に立つ。終盤、北陸も底力を見せるが、中盤の大分の猛攻が響き、僅かに及ばず惜敗。大分が準決勝へとコマを進めた。

2016年 3月 27日

記載者氏名 石田 聡